



本館も、3月14日で開館から半年となりました。現在、24名のオーナー様に本棚をお借りいただいております。24の個性ある本棚が、皆様をお待ちしております。3月に新しくオーナーになって頂いた棚をご紹介します。仏画家ジャン・デュビュッフエが提唱した「アール・ブリュット（生の芸術）」。「アウトサイダー・アート」。「鮎万里絵」。「アートパラリンピック」。2016年から2019年の「ZAWAMEKI ART」図録。「ZAWAMEKI ART ARCHIVE」、2022年から2024年までの図録。それらに紹介されている作品から受けるざわめきは、まさに現代社会のざわめきそのもの。「鮎万里絵」さんの作品には圧倒されます。先月号以降の来館者の声を届けます。「25.2.21小さい頃に、遊び場にしていた通りに、こんなにも素敵な図書館があること、人と人が関る場所になっていることに、とても嬉しく聞かせて頂いています。これからもよろしくお願いします!」、「25.3.12ずっと気になっていたのが今日は入れて嬉しいです。ぼたんやりボンも販売されていたり、ブックカバーもお店のものだったり、愛を感じました。これからますます地域に愛される場所になりますように。ご近所なので、ちょくちょく来たいです。」(A様) これからも宜しくお願い致します!

Topic 01 第三回イベント、開催しました!

2025年2月18日に第3回目となるイベントを行いました。今回のスピーカーは、わがゼミの長野県立大学グローバルマネジメント学部4年生の齋藤舜太郎さんで『「一箱本棚オーナー制度」を利用した私設図書館によるコミュニティ形成—まちかど図書館ぼたんを事例に一—』というテーマの卒業論文の成果を発表していただきました。今回初めて平日に開催しましたが、オーナーである内田様、樋口様、山下様、そしてオンラインでの開催をしてほしいというお声に応えて、zoomでのオンライン参加も可能となり、早速オーナーの箱山様、攪上様の2名の方が参加して下さいました。加えて、まちづくり長野の宮島さん、学生3名、築山教授の計10名での開催となりました。

「図書館を活用した持続可能な社会の構築」

齋藤さんがこの研究を始めたのは、日本における地方都市の衰退により、地域活性化の手段として図書館が注目されているという社会背景があり、「私設図書館」、「一箱本棚オーナー制度」の新しい取り組みで地域住民が図書館運営に関わる仕組みとその現状を明らかにし、地域住民の関与や社会的・文化的効果を考察するとともに、地域住民同士のつながりや文化的発信の場としての機能を検討する。そして、地域づくりへの主体的な関与の重要性や、ゼミのテーマでもある持続可能な社会の構築の可能性を捉えるのが目的であると説明された。

先行研究では、磯井純充氏の「まちライブラリーを活用した地域の場づくり」を参考とし、都市の再開発などによる住民関係の希薄化、行政・企業主導型の住民参画プロジェクトの限界などの問題意識から、住民主体である「まちライブラリー」の可能性に着目した。事例研究では、神奈川県茅ヶ崎市の海辺に位置する、コワーキングスペースと図書館を兼ね備えた施設である「Cの辺り」を取り上げた。この施設は茅ヶ崎の海のシンボリックなモニュメント「サザンC」の目の前にある、海を眺めながらのリモートワークができる。一方で、一箱本棚オーナー制の図書館も利用でき、50名以上のオーナーがそれぞれの価値観を反映した本を並べている。また「Cの辺り」では、人間関係や相互扶助を「資本」と捉え、DIYワークショップなどで内装の整備などを実施し、参加者全員が「自分の場」という意識を持つことで単なる施設提供のみならず、地域住民の自主的なつながりを育む原動力となっていた。

本館の本棚オーナー様5名に対しまちづくりに興味を持ったきっかけ等を調査した。その結果、地域との関わりについて、5名全員が自ら積極的に関わっておられることが共通していた。特筆すべき点は、自己満足ではなく、他の誰かのため、つまり利他という点が共通しており、皆様人生のどこかのタイミングで、ターニングポイントを迎えて、そのことをきっかけに町や地域との結びつきが一段と強くなっていることが分かった。これらの聞き取り調査から、一箱本棚図書館は、そのような利他志向のある人々が集まる場であり、単なる本の貸し借りを越え、住民同士の交流を促進する場となり、本を媒介とした対話が住民同士の心理的な「居場所」づくりに寄与している。つまり、私設図書館は住民の物理的・心理的なサードプレイスとなりうる。図書館の持続可能な運営には継続的な参加者確保のための工夫、運営資金の新たな調達方法、地域ニーズに合わせた柔軟な運営をしていく必要があると指摘した。

最後に今後の展望として、地域住民が関与しやすい場作りの支援、持続可能性を高める運営の新しいアプローチ、より幅広い層へのアプローチに取り組んでいくことで、私設図書館が地域社会において実践的なモデルとして展開され、持続可能なコミュニティ形成の新たな枠組みを提供することが期待されるとして発表を結んだ。

「ぼたんならではの成果」

発表の後、多くの質問や感想をいただいた。その中で、攪上さんより、「みんなしよは全国にあるが、このように大学やその学生が運営に参加している事例はあまりなく、学生が入ることで研究に結びつくことに非常に意義がある。」というご感想をいただいた。今後もボタンを「実験室」として、店番を「参与観察」、「実査」として存分に活用し、コミュニティ形成の構造を研究していきたい。



「参加者にとっての地域活性化とは」

会が進んでいく中、参加者それぞれが考える地域活性化がトピックとなり、各々が自身のエピソードとともに考えを語った。篠崎さんは「経済だけではなく、人間関係が大事。孤立する人が少なくなるような社会、人と人との繋がりを重要だと考えている」という意見を述べてくださり、まちづくり長野の宮島さんは「1年間この会社に入って、毎月まち歩き、空き家見学会、会議をやってきた。感じるのは、どの場所でも人とのつながりというキーワード、地域の人とのつながりがあってここまでこられたということ。人とのつながりで新たなコミュニティが生まれ、賑わいが増え、それが伝播していくことではないか。」と語ってくださった。地域活性化と聞くと、人口増加などが思い浮かびやすいが、参加者の方ほとんどに共通していたのは「人とのつながり」に関するものであり、その重要さをより実感することができた。

「ぼたんに望むこと」

座談会中にはオーナーの皆さんのボタンに対する要望などが多く聞かれ、今後の運営に向けて非常に収穫のあるものとなった。中でも、「店番をやりたい」というお声が最も多く、学生にとっては、オーナーの方が店番をしてくださるのは大変助かるので、できるだけ早く実現させていきたい。また、オーナーさん企画で、月一のイベントで読書会や物販をやりたいというお声もいただいた。どれも実現できれば素敵なことであり、オーナーさんが主体となって輝ける場を提供していければと思うので、検討を進めていきたい。

Topic 02 オーナー様エッセイ No. 3

バリアフリー絵本

攪上 久子

このたびオーナーに加えていただきました、攪上（かくあげ）久子と申します。よろしくお願いいたします。
私は「バリアフリー絵本」の研究がライフワークで、2002年から、「バリアフリー絵本展・図書展」の全国巡回をしてきました。実は巡回第一号地は長野市でした（2002.5.31-6.2バリアフリー巡回展長野会場実行委員会主催）。
バリアフリー絵本とは、「（絵本を読むことに）障害がある子どもたちのためにバリアフリーデザインで作られている絵本や、障害（バリア）について描かれている絵本」です。さらにバリアフリー絵本は4つに分けて考えるとわかりやすいです。

- (1)絵本にある障害（バリア）を超えるために、特別な配慮を加えて作られている絵本【FOR】
- (2)障害（バリア）について知る、理解する絵本【ABOUT】
- (3)当事者によって制作された絵本【BY】
- (4)障害（バリア）の有無にかかわらず、ともに楽しめる絵本【WITH】

＊種類は重なり合います

「ぼたん」の棚にはこの4種を取りまぜて配架したいと思います。本には窓と鏡の役割があると言います。どんな子にも鏡や窓がある絵本を見つけ出して棚に並べたいです。

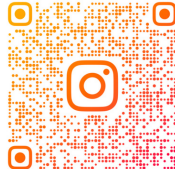
巡回を通して、多様な子どもたちばかりでなく、私は全国のこうした図書のために尽力している方たちや、絵本作家さんや編集者、図書館員等々、本を通してたくさんの人と出会ってきました。「ぼたん」でも、バリアフリー絵本がつかないでくれる人との出会いを楽しみにしています。

Topic 03 開館時間について

ホームページ



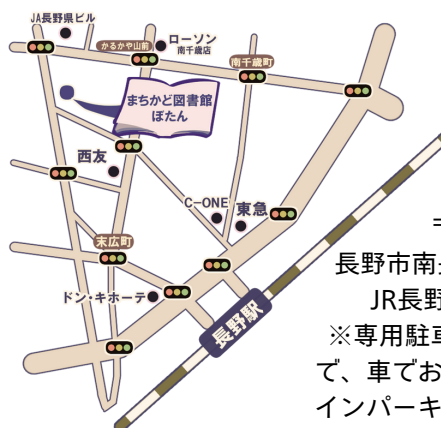
Instagram



開館時間は10時から18時までですが、ゼミ生と教員が店番をしている関係で、その時間内で、可能な時間に開館しております。詳細はホームページまたはInstagramで確認をお願いいたします。

URL:<https://machinakabotan.com/www.machinakabotan.com/>

Topic 04 アクセス



〒380-0826

長野市南長野北石堂町1185-6

JR長野駅から徒歩7分、

※専用駐車場はございませんので、車でお越しの際は近隣のコインパーキングへのご駐車をお願いいたします。

2025年3月23日発行

編集：長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山ゼミナール

住所：〒380-8525 長野市三輪8-49-7 B309研究室

Tel：026-217-2241（代表） fax：026-235-0026

E-mail：tsukiyama.hideo@u-nagano.ac.jp

つなぐ、広げる、コミュニティ！
まちかど図書館
ぼたん